

科目名称 (Course Title)				担当教員 (Instructor)	
専門研究Ⅱ				齋藤 達弘	
開講学期 (Semester)	単位数 (Credits)	履修年次 (Requirement)	授業形態 (Class Type)	受講定員の有無 (Maximum Enrollment)	授業公開 (Workshop Class)
後学期	2単位	3年次	演習	有 (連絡済)	
授業の概要 (Course Description)					
<p>テーマ：gretl (グレーテル) で計量経済分析</p> <p>計量経済分析は、地域協働型教育との関係では、政策評価のための必要不可欠の道具である。</p> <p>前半は、専門研究Iからの続きとして、コンピュータで計算しながら理論 (分析手法：操作変数法とパネル・データ分析) を学ぶアプローチを採用する。ゼミは実習ではなく、教科書の輪読が中心となる。</p> <p>後半は、卒業論文を念頭に置いて、それぞれが関心を持つテーマについて、どのようなデータ分析ができそうかを考察し、データ収集に着手する。ゼミはみなさんの進捗報告が中心となる。</p>					
授業の到達目標 (Course Objectives)					
計量経済分析を実施し、その分析結果を理解するための必要最低限の概念やルールを習得すること。また、関心を持つテーマについて、どのようなデータ分析が可能なのかを見極めること。					
授業計画 (Course Schedule)					
第 1 回	ガイダンスと専門研究IIの全体像				
第 2 回	輪読：教科書 第8章 (pp. 190-202)				
第 3 回	輪読：教科書 第8章 (pp. 202-209) + 実証分析問題				
第 4 回	輪読：教科書 第9章 (pp. 210-221)				
第 5 回	輪読：教科書 第9章 (pp. 221-236) + 実証分析問題				
第 6 回	途中まとめ				
第 7 回	テーマ設定 (1)				
第 8 回	テーマ設定 (2)				
第 9 回	データ収集 (1)				
第 10 回	データ収集 (2)				
第 11 回	データ収集 (3)				
第 12 回	途中まとめ				
第 13 回	基礎的なデータ分析 (1)				
第 14 回	基礎的なデータ分析 (2)				
第 15 回	全体まとめ				
授業時間外学習 (Supplementary Activities)					
gretlによる計量分析を自宅学習すること。					

成績評価の方法と基準(Grading)	
評価方法 (割合)	評価基準
演習への参加 (100%)	秀：論点を特筆すべき水準で理解している。 優：論点を適切な水準で理解している。 良：論点をおおよその水準で理解している。 可：論点を最低限の水準で理解している。 不可：論点の理解が最低限の水準に達していない。
テキスト (Textbook)	田中隆一『計量経済学の第一歩』有斐閣、2015年。
参考書・資料等 (Supplementary Reading)	加藤久和『gret1で計量経済分析』日本評論社、2012年。 山本勲『実証分析のための計量経済学』中央経済社、2015年。
備考 (Other Information)	専門研究Iの進捗に応じて授業計画を変更することがある。
教員との連絡方法 (Contact With Instructor)	メール連絡。